

辺野古埋め立て土砂搬出反対ニュース

北九州連絡協議会《2015年10月17日・No29》

連絡先…森下宏人 090-9495-3902 八記久美子 080-1730-8895



全国からの署名 52,429 筆 内閣府に提出

防衛省・環境省・経済産業省と引き続き論議続けることに



防衛省の担当者に要求書を提出



北九州連絡協議会から八記事務局長が参加しました



環境省と産業経産省の担当者に要望書を提出



内閣府に全国からの署名を提出

■精力的に行動

10月15日(木)、辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会は、全国から集まった署名 52,429 筆(北九州からは 12,158 筆)を、内閣府に提出しました。

当日参加をしたのは、北九州・奄美・五島・小豆島などの搬出予定地をはじめとする、10 団体 23 名。

この日は、①防衛省への要請、②環境・経産省への要請、③記者会見、④内閣府での署名提出、そして、前日からの、衆参の議員室を回っての要請行動が、精力的に行われました。

■貴重な1歩に

中谷防衛大臣には、基地建設の埋め立て用の土砂の採取・購入計画の中止を求める要請を、丸川環境大臣には、採取・購入に関する要請を、そして、林経産大臣には、業者のための法律となっている現在の「採石法」に関する公開質問状を提出しました。

いずれも1時間にも満たない時間で、論議が深まることにはなりませんでしたが、どの省とも、話し合いを続けていくことが確認されました。

■自然は縫い目のない織物

いずれの行動でも、全国連絡協議会は、「論争が続いている最中に、工事が進んでいくというのは、あり得ない話」「埋め立てを言うことは、その場がなくなると言うこと。自然は縫い目のない織物。どこか1ヶ所傷つくと、予想もつかない別のところに傷が出来る。」など、活発な発言を行いました。慌ただしいけれど、中身の濃い行動となりました。

辺野古への土砂搬出反対 全国協が署名提出



土砂採取に反対する全国からの署名を内閣府へ提出する大津幸夫共同代表(右から2人目)＝15日、東京・内閣府

【東京】名護市辺野古の新基地建設で、沿岸部の埋め立て用土砂採取地域の13市民団体でつくる「辺野古埋め立て土砂搬出反対全国連絡協議会」は15日、土砂採取計画の撤回を求める5万2429人の署名を安倍晋三首相宛てに提出した。

大津幸夫共同代表は、「辺野古反対運動を全国に広げる大きな種をまくことができた。安倍政権は辺野古以外に道はないというが、強行すれば火はさらに大きくなり政権を追い込むだろう」と述べ、計画阻止に意欲を示した。

これに先立ち、協議会は防衛、環境、経済産業の各省担当者との政府交渉を実施。市民らは海の生態系を守るために辺野古沿岸を早期に海洋保護区として選定すべきだと訴えたが、環境省は明確な返答はしなかったという。また、メンバーは環境影響評価(アセスメント)後に新種が発見された場合、アセスのやり直しを規定していない現行法を問題視。環境省へ法改正を含め再検討を求めた。

阿部悦子共同代表は、「私たちは古里の環境を壊させない立場で運動してきた。沖縄の置かれた不条理と我々の不条理を重ね合わせ、計画の撤回に向け運動を続けたい」と力を込めた。

辺野古

土砂搬出に反対署名 全国協 結成5カ月で5万人分

13市民団体でつくる「辺野古埋め立て土砂搬出反対全国連絡協議会」は15日、沖縄県名護市辺野古の米軍新基地建設のために西日本

各地から土砂を採取する国の計画の撤回を求め、今年5月から約5カ月余りの期間に全国で集めた5万2429人分の署名を内閣府

に提出しました。全国協議会は、埋め立て先の辺野古と、大量の埋め立て土砂の採取先の本土側各地の自然環境を「二重破壊」

することに反対して、5月末に7団体で結成。この日、協議会として初の署名提出と関係各省への要請行動にこぎつきました。

署名は、防衛省が土砂の調達先としてあげている九州・瀬戸内地方の地元を中心に、北海道、福島や国会前など全国で集まったとい

います。自然と文化を守る奄美会議共同代表の大津幸夫共同代表は記者会見で、「沖縄を応援する運動が全国に広がっていく種となった意味は大きい。この運動は日本のあり方を変えていくと確信する」と手

書を手渡しました。防衛、環境、経済産業の各省担当者に要望の阿部悦子共同代表は、「沖縄が抱える不条理と、辺野古にふるさとの土をもっていくという一点で私たちは重なる。決して埋めさせない」と述べ、署名をさらに広げる決意を語りました。